

地域密着型サービス評価の自己評価票(南館)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>。地域密着に向けた新しい理念を、スタッフ全員で作りました。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・毎月のミーティングで事例などに基づいて、話し合い、共有するように努めている</p> <p>・理念カードを所持している。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・家族へは、ホーム便りの発行や、地域で生活する事の重要性について話をしている。地域の祭りや行事への参加や、開所前の説明会や見学会を実施。</p>	<p>・地域住民との交流を深めるため、町内会への加入や、ホーム主催の催し事への招待をする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・ごく一部の近所の方とは、花をもらったり、作物をもらったりと交流をしたいが、まだまだ、十分とは言えない。</p>	<p>○</p> <p>・町内会への参加</p> <p>・地域へのホーム便りの発行</p> <p>・ホーム主催の催し事への招待。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・夏祭りやそば会等に参加している。</p>	<p>○</p> <p>・同上</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・行えていない	○	・認知症ケアについての勉強会の開催。 ・実習生、ボランティアの積極的な受け入れ。 ・地域包括センターとの連携強化。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・目的や評価を踏まえて、ミーティングなどを通して、話し合いを行い、改善に向けた取り組みを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出た意見に対して、その場で説明、次回での説明を行い、互いの意見や、ホームでの取り組みなどを理解してもらえるようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・推進会議での連携しか取れていないため、機会を増やし、さらなる質の向上を図る必要がある。	○	・市との連携強化を図るために、会議以外にもコンタクトをとっていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・権利擁護の研修等には、積極的に参加している。しかし、それらを活用するまでに至っていない。	○	・人権擁護などの研修の参加。 ・個々に合った、制度を活用出来るようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ミーティングや研修参加によって、理解の浸透に努めている。また、職員同士、行動を把握し合いながら、虐待防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・家族との相談、了解の下行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者からの苦情はもちろん、家族等を通した苦情、意見も可能な限り改善し、サービスに反映するようにしている。意見箱を設置しているが、使用例がない。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・毎月、家族への報告を行っている。 ・状況によっても、こまめに報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族からの要望などは、スタッフ間で話し合い、意向に反映できるようにしている。意見箱を設置したいが、使用例がない。	○	・家族会の開催 ・気軽に、意見が言い易い環境の構築。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・ミーティングの際、話し合いを行っているが、全ての要望、意見が反映されているとはいえない。		・ミーティング以外でも、個別面接の機会を設ける。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者に合わせた調整はできているが、完全とは言えない。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・馴染み関係を大事にしているが、ホームの構造上日頃から2ユニット含めて関係作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・積極的な研修参加を行っている。また、報告書の提出と発表をすることになっている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者との交流は積極的に行っている。 ・同業者共同の研修、行事の参加。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・飲み会などの開催。	○ ・職場以外での親睦会の開催の継続。 ・意見を出しやすい環境づくり。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・研修や資格取得に向けたバックアップを積極的に行っている。また、個々の意見を積極的に取り入れ、自信や向上につなげるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・本人、家族などから生活状態や生活歴を把握するようにしている。また、それを生かすことで信頼関係の構築に努めている。 ・随時聴いているが、プラン変更時にも改めて聞くようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・家族の要望を、生活の中に反映できるように記録し、スタッフ間で共有している。 ・来訪時などにも聴くようにしている。	・プラン変更時には、意向等を聴くようにしているが、その他にも定期的な機会を設けるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状態やホームの状況によって、他サービスとの連携を取り入れている。		・他サービスの状況の把握と連携の強化をする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ホームに来訪してもらい、コミュニケーションをとったり、自宅や入院先への面会も行っている。 ・入所後の雰囲気作りにつとめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・畑仕事、掃除、漬物、裁縫、動物の世話など活躍の出来る場面を作るようにしている。	○	・全ての利用者に、活躍の場を提供できているわけではないので、生活暦や生活スタイルを見つめ直し、改めて提供できるようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族との連絡は細かく行い、情報の共有、生活の質の向上に共に取り組んでいる。 ・畑なども管理していただき、収穫などの喜びを共にしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・すべての利用者に行えていないのが、現状である。情報の共有を行っているが、来訪していただけないケースがある。	○	。来訪していただけないケースについては、家族の状況についても考慮しながら対応していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お寺での勉強会参加や、馴染みの人宅への訪問。馴染みの美容室に行くなど、在宅生活の延長と考えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・職員では出来ないようなケアをしてくれるために、利用者同士の関わりを大切にしている。 ・コミュニケーションの困難である方には、スタッフが間に入るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所後も、状況を聞いたり、家族からも近況を報告していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の意向を大切に提供している。意思表示が困難な場合は、表情や少ない言葉から感じ取るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・情報は、入所前、入所後と常時把握に努め、記録し、スタッフで共有するようにしている。 ・ライフヒストリー表を作成し活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・毎日のアセスメントから、出来ること、出来ないことを把握し、能力に合わせた援助を行っている。個々の生活のリズムを大切にしている。		・記録の上達。わかりやすく記載する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族、スタッフの意見を取り入れて介護計画を作成している。また、個々の行事なども取り入れているため、訪問先のスケジュールにも合わせている。		・完璧は無いため、今まで以上に、コミュニケーションを深め質の向上をはかる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・モニタリング、状況に応じたプランの見直しを行っている。その際には、家族等の意見を必ず記録し、反映するようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ 個別的に記録し、誰もが目を通しやすい方法をとっている。食事量、水分量、排泄も1日単位、1ヵ月単位で、確認出来るようにしている。		・ 気づき、状態など、もっと細かく記録していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・ 出来ていない。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ 図書館等の施設は利用しているが、連携を図れているとは言えない。 ・ 音楽セラピー、園芸療法を取り入れている。	○	・ 多角的に見て、必要に応じて、必要なときに資源を活用できるように準備をする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・ 本人希望の美容室や、図書館の利用、催し物の参加などを積極的に行っている。		・ 色々な方面の方たちと関わりを増やし、生活の幅を広げる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・ 地域包括センターとの関わりはない。	○	・ 地域包括センターとの連携。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ 医療機関に関しては、入居時に話し合い決めている。 ・ 症状に合わせた医療機関へ受診することもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・ミーティングの際に、日常的な関わりについて話し合いをし、プライバシーやプライドを保てるような対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・個々の能力に合わせ、個人が選択出来るような場面を作っている。表情や言葉の中からも、何がしたいのかを把握出来るように努める。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・買物、図書館、外食など、なるべく行きたいときに支援するようにしている。	・全てが、希望に添って行えているとは言えないので、希望に添った対応が出来るようにする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人の意向に任せている。場面にあった衣類を選べない方には、こえかけなどをして援助している。 ・希望の美容室に行き、自由なカットをしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・畑で出来たものや、旬のものを取り入れるようにしている ・病状や好き嫌いもあるため、個々に合わせたメニューで提供している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・たばこ、酒など、本人の希望に沿って提供している。 ・毎日呑む方もいるが、雰囲気を出すため、月1回、居酒屋の日を設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・習慣、パターンをアセスメントし、個々に合わせた支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・毎日、どちらかのユニットで風呂を沸かし、朝から好きな時間に入れるようにしている。	○	・職員の都合で入ってしまうこともあるので、改善したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・入居以前からのリズムを継続しているため、昼寝をする方もいて、スタッフ全員が統一して行うようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・畑仕事、図書館、掃除、動物の世話、漬物づくり、地域の催し物、ドライブなど楽しみ事は、積極的に提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・能力に合わせた支援をしている。少々の額のお金を管理してもらったり、難しい方は、買物時に渡したりと工夫している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・外出することに力を入れている。車椅子でも外食などに出かけている。 ・花見、たけのこ堀など季節を感じられるようにしている。		・もっと外出する機会を増やし、社会との繋がりを増やした。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・東京への墓参り、紅葉狩り、神社、温泉、鮎の塩焼きなど、希望の全てではないが、提供している。	○	・家族も含めて、となると出来ていない。家族を含めた機会を作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 電話はかけたいときに、かけられるようにしている。 手紙も一緒に出すようにしている。 居室に電話を引いている方もいる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 手紙の内容を理解できず、送られずに終わってしまうケースもあるので、スタッフが上手に関わることで実現していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 面会時間はもうけていない。夜間に関しては、連絡をもらうようにしている。 畑や談話室の開放。 		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 何気なく発している、言葉の中にある拘束についても話している。 		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 日中は、一切鍵をかけない。 見守りによるケアを重視している。 居室の鍵を自分で管理している方もいる。 		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> 管理、監視ではなく、さりげなく見守り、誰がどこにいるかを、把握するようにしている。 		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 危険だからダメ、ということとはしたくないため、能力にあわせ、一緒に行ったり、声かけで対応したりしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 火が出るものについての、常時居室の保管については、禁止させて頂いている。何かよい方法はありませんか？
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> たばこなどは、必ずスタッフが付き添いさりげなく見守る。 誤薬なども、スタッフの確認を重視することで防止している。 		<ul style="list-style-type: none"> 消防訓練や、ドクターの講習を受けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年に1回、普通救命講習を受講している。		・転倒や日常的に起こりうるリスクについて、もっと深く勉強していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・避難訓練は行っているが、地域の協力、連携にはいっていない。	○	・運営推進かいぎを通して自治会との関係を深め、協力体制をきづいていく。 ・車椅子の出口の問題などもクリアする必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・入居時には、環境の変化による症状の進行の可能性などについて話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段の様子を把握することで、少しの変化にも気づき、場合によっては医療につなげるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬表を作成し、主治医の指示もチェックできるようにしている。服薬時は、スタッフが確認し、手渡すようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘がちな方は、毎朝、冷たい牛乳を飲んだり、主治医との連携を密にはかっているが、運動に反映されているとは言えない。水分も十分に摂るようにしている。	○	・低運動なども取り入れていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、個々の能力に合わせた支援をしている。 ・月1回、歯科医との連携を図っている。	○	・把握出来ていない方もいるので、大丈夫と決めつけずに、知っておく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事、水分の摂取量を毎回チェックし、1日の総摂取量を記録している。 ・栄養士にも指導してもらっている。 ・食事制限のある方も、計算し個別のメニューを作成している。 		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症に対する講義を主治医から受け、予防、対策に努めている。 ・予防接種も受けている。 		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・まな板、布巾など毎日漂白している。ガス台、台所周りも、毎晩洗っている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチを置いたり、花を植えたりと、立ち寄りやすい雰囲気づくりに努めている。 		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々、それぞれの不快を感じることを把握することで、混乱、不穏になることを減らしている。 ・季節の花や、食材を取り入れ、季節感を出すようにしている。 		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・談話室や廊下に椅子を設置するなどして、ひとりいながら、他人の空気を感じられるような空間づくりに努めている。 ・居間の一部にも、ソファを設置するなど、常に居場所作りに努めている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家族と協力して、馴染みのあるものを提供してもらうようにしている。(茶碗、箸、テレビ、タンス、仏壇等)		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・設計の段階から、工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・ADLの低下に合わせ、能力にあった支援をスタッフで話し合い実行している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・畑、花壇、動物など外で活動できる場面を作っている。デッキでは、バーベキューなども行う。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自宅で生活していたときの延長と考えているため、個々の行事の参加や、知人宅への訪問などを積極的に支援している。また、個々の買物、外食など行きたいときに、すぐ対応するようにしている。お酒、たばこなども、個々の要望に合わせて提供している。毎年変わりません。